

# くどう市長と語ろう！ 第1回ふれあいトーク



日 時 平成24年1月21日(土) 14:00~16:10

場 所 宝来地区活動拠点センター(宝来4丁目)

## 《第1回ふれあいトーク 開催結果》

### ●参加者数 31名

(男女別) 男性 12名 女性 19名

(年齢別) 30代…2名 40代…5名 50代…4名 60代…6名

70代…9名 80代…5名

### 【参加者からの意見】

1. 若い世代に対する市営住宅への入居募集について
2. 義務教育を終了した人（高校中退者含む）や障がいを持った人が進路や就職などを相談できる窓口について
3. 南地区から北地区へ人を呼び込む対策について
4. 災害時の避難に支援が必要な高齢者・障がい者の把握について
5. 市営住宅への談話室（サロン）的な場所の設置について
6. 発達障害などを早期発見し支援するための5歳児検診の実施について
7. 育ちそびれの子どもの現状と幼少期の親子関係について
8. 民生児童委員・主任児童委員と保健課との連携について
9. ノシャップパークゴルフ場の休憩室の増築について
10. 宝来地区 10階建て市営住宅の災害発生時の避難場所としての活用について
11. 若者が安心して働ける環境整備について
12. スクールガード活動への支援について
13. 市費教員、支援員設置の継続について
14. 活動拠点センターでの窓口サービス機能拡充（証明発行）について
15. 宝来地区活動拠点センターの増築（2階）について
16. 老人クラブの活動拠点センターの減免について

## 1. 若い世代に対する市営住宅への入居募集について

### ◆参加者からの意見等

- 宝来地区には、数年前に新しく10階建の市営住宅が建設されたが、入居者は高齢者ばかりで、若い世代の入居があまりない。
- 若い世代に入居してもらうことにより、北地区の少子化や高齢化などといった問題解決に繋がるとともに、災害等が発生した際に市営住宅内の連絡役などを引き受けてもらうことも出来る。
- 現在建設中の2棟目の市営住宅は、若い世代に対する入居募集をすることはできないのか。

### ◆市長からの意見等

- 既に市営住宅に住んでいる方の住み替えが最優先になってしまうため、長く居住している高齢者が多くなってしまふ。
- 所得制限等の関係もあり、なかなか地域が望むような若い世代の方々に入居してもらうのが難しい状況となっている。
- 非常に難しい問題ではあるが、これからの研究課題として、考えていかなければならないと思っている。

### ■ 検討状況など 【担当…建設産業部・都市整備課】

宝来団地（2期）の建設は、老朽化の激しい市営住宅（富士見・恵比須・潮見）入居者の住替えを目的に、事業を開始いたしました。

入居は、今年8月からの開始を予定しており、現在、40戸中、20戸の住替えが決まり、残りについては交渉を継続しております。

市営住宅の入居者は高齢者が多く、若い世代の入居を願う声は、各自治会からも強い要望を受けているところですが、法律（公営住宅法）の縛りがあり、法の趣旨である低所得者の救済が優先されるため、若い世代の平均的な収入では入居基準を超えてしまうことから、入居が困難な状況となっております。

今後は、地域主権改革（法改正）に伴う市条例の改正も視野に入れ、世代が複合する住宅施策への展開が必要であると考えております。

今後の北地区は、中心市街地活性化を含め、若い世代の力が必要であり、若者の“まちなか居住”の推進を含め、若い世代が入居しやすい住宅施策を検討してまいります。

## 2. 義務教育を終了した人（高校中退者含む）や障がいを持った人が進路や就職などを相談できる窓口について

### ◆参加者からの意見等

- 障がいをもっている、親が認めないと認定を受けられず障害年金の受給もできないが、そういう場合に相談できる窓口が必要ではないか。
- また、進学や就職をせずに、家に引きこもっている若い人が北地区にも見られる。就学中は学校で相談に乗ってくれるが、卒業（中退）してしまうと、学校との繋がりが希薄になってしまい、相談できる窓口がない。
- 進路や就職などについて相談できる窓口をどこかで設置することにより、少しでもそういう人を減らすことが必要だと考える。

### ◆市長からの意見等

- 障がいを持つ方、色々な事情で悩まれている子どもさんへの対応ということについては、「つばさ学級」や民間の障害者施設などがあるが、外から見て状況がわからないからといって、どうですか、どうですかと回って歩くわけにもいかないので、まだまだ救いきれていない所があるのだと思う。
- 市であれば保健福祉センターなどで、相談があれば対応することになっているが、抜本的にどう取り組むかということに関しては、しっかり窓口を持ち行政の一環として取り組んでいるというところまでは行っていない。
- 家庭や学校、地域などへ色々な情報を提供しながら考えていくしかないのかと思う。

### ■ 検討状況など【担当…生活福祉部・保健課】

引きこもりの支援については、全国的にも支援体制ができていないというのが実態で、本市についても同様ですが、保健センターでは、実績は多くありませんが健康相談の一つとして対応しています。

引きこもり状態は様々な要因から起きると言われていますが、障がいや精神疾患を抱えているケースもあり、初期対応としては、専門的な治療が必要ないか、また暴力や自傷等危険行為がないかなどの見極めが重要です。

その後は、具体的に抱えている課題（就労支援や通学支援や居宅サービス等）が様々ですので、本人や家族と信頼関係を作りながら、関係機関と連携し自立を促す支援をしていくこととなります。

ご家族も自責感や恥という感覚から、かなり深刻になるまで相談できないという場合が多いと思われるので、地域の方が気づいた場合は、地域の方から相談していただきたいと思います。

今後、市としても支援体制の整備等に取り組んでいきたいと考えております。

### 3. 南地区から北地区へ人を呼び込む対策について

#### ◆参加者からの意見等

- 政策で南地区に人口が流出し、北地区では、年々人口が減ってきており、特に若い世代が少なくなっている。この地区には、小学校、中学校が存在しているが、このままでは、廃校になってしまう恐れもある。
- 今度は、南地区から北地区に戻るような優遇策などの対策を、みんなの知恵を絞りながら講じられないか。一度には良くならないだろうが、地域の人たちの知恵と力で考えて、迎え入れていく必要があると思う。

#### ◆市長からの意見等

- かつて公共政策・住宅政策として、富岡方面に人口を誘導した時期があった。まさしく、人口の中心が北から南もしくは東に動いている。
- 昨年から、宝来から恵比須にかけて、居住するにあたっての問題点等の調査を行っており、新年度も継続して行う予定である。
- まちとしてバランスを考えたときに、決して今の状態が良いとは思っていない。どこまでできるかは別にしても、北地区の文教という機能も守って行きたいし、少しでもにぎやかさを取り戻したいという思いはあるので、そういう視点で取り組んで行きたい。

#### ■ 検討状況など 【担当…建設産業部・都市整備課】

稚内市は、駅前市街地を中心とした、コンパクトなまちづくり、低炭素社会の構築を目指しておりますが、その中でも北地区は、地形も平坦で、道路が直線的に南北に延びており、交通や公共施設の利便性も高く、生活環境の基礎要素を十分有していると考えております。

北地区の若い世代が減少していることは事実であり、もし、今後、中央小学校や稚内中学校が廃校になるようなことでもあれば、北地区だけではなく、中心市街地そのものに大きなダメージを与え、ひいてはまち全体の衰退に繋がりがかねないものと懸念しております。

そのためにも、現在は郊外に住んでいる高齢者に、暮らしやすいまちなかへ住替えをしていただき、同時に若い世代にも移り住んでいただくことで、若い活力を市街地に流入しなければなりません。

そうしたことから、その一翼を担う北地区について、昨年度、「北地区住環境基礎調査」を行っており、平成 24 年度は、その「詳細調査」を行う予定です。この調査により、北地区の持つ問題点の解決方法や、地区の機能性を検証し、トータル的に「北地区のありかた」を考えてまいります。

## 4. 災害時の避難に支援が必要な高齢者・障がい者の把握について

### ◆参加者からの意見等

- 地域として災害発生時には、一人も見逃さないように心掛けているが、民生委員だけでは難しく、行政も地域の人達も協力しなければ成り立たない。
- 特に障がい者に関する情報が把握しきれないが、個人情報保護の関係で公開してもらえない。
- 他市では、民生児童委員に情報を公開している場合もあるので、本市でも守秘義務のある民生児童委員に対して、情報を公開していただけるよう検討して欲しい。

### ◆市長からの意見等

- 個人情報の保護については、おっしゃるとおり、ここ20年くらいで、一気にそういう社会に移ってしまった。市としても市民に迷惑をかけることが少なくないし、不便な点多々あるのが現状である。
- しかし、現実的には法律により、保護されており、簡単に情報を提供できないのが実情であるため、他都市の状況等を研究し、今後検討していく。

### ■ 検討状況など 【担当…総務部・総務課（防災担当）】

災害時の避難が自力で困難な方（要援護者）への支援については、現在、市の庁内に立ちあげた「防災プロジェクト」で検討を進めており、その中で、個人情報の取扱い（開示）についても検討を進めております。

地域が把握する独自の情報と、本市が保有する情報を、避難の手助けをしていただく地域の方と共有することで、災害時の避難支援に有効に活用していくことが必要だと考えております。

## 5. 市営住宅への談話室（サロン）的な場所の設置について

### ◆参加者からの意見等

- 宝来地区の市営住宅には、他の市営住宅からの住み替えで移り住んでくる方が多くいるが、新しい地区では、隣近所との付き合いがなく、孤独に過ごしている人が多い。実際に回ってみて、孤独死が心配だと感じている。
- そのような方々が他の入居者と話が出来るよう、入居者が集まって話をするような談話室（サロン）的なスペースがあると良い。また、若い人に入ってもらい、見守っていただきたい。
- 建物が完成してからも、行政としても地域住民としても、ここに住んでよかったと思ってもらえるまちづくりを、考えていかなければならないと思っている。

### ◆市長からの意見等

- 私自身も、色々な地域を回り、実際、非常に大変な状況に置かれている方がいることは、よく承知している。
- 手法は別にして、そのような方々が表へ出て、触れ合えるような機会をつくることは必要だと考えており、現実的にできるように考えていくので、もう少し見守っていただきたい。

### ■ 検討状況など 【担当…政策経営室】

すでに建設されている10階建て市営住宅及び5階建て道営住宅、平成24年度供用予定の10階建て市営住宅の入居者が、棟ごとの狭い範囲の談話室ではなく、地域との触れ合いが重要であるということから、地域の理解・協力により「宝来地区活動拠点センター」を建設した経緯があります。皆さんが憩い集う“たまり場”として、ぜひ、地域の皆さんが無料で利用できる「地域サークル室」を使っていたきたいと思います。

市営住宅で孤独に過ごしている人が多いという点については、地域でも、どのようなことが可能なのか、検討していただければと思います。市も皆さんと一緒に考え、一緒にこの問題解決に取り組んでまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

## 6. 発達障害などを早期発見し支援するための5歳児検診の実施について

### ◆参加者からの意見等

- 近年、学校で座ってられない子どもが増えている。
- 幼稚園や保育園を通じて、情報の提供はしているが、最後は家庭と相談して対応を決めることとなる。特別扱いされたくないという親の心理もある。
- 小学校では、軽度から重度まで様々な子どもがいるが、1学級に3、4人はいるのが現状である。
- 保護者の同意が必要という形ではなく、全員対象の5歳児検診を実施してはどうか。身体だけではなく精神面の発達なども合わせて診ることができる。小さい時に、そういうことが見つけられて、専門家にきちんと診てもらい指導を仰げば、早い時点で子どもを救えるのではないかと思う。

### ◆市長からの意見等

- 提案をうかがったので、所管に検討させたいと思う。

### ■ 検討状況など 【担当…生活福祉部・保健課】

現在、「発達障害」の発見については、1歳6か月児や3歳児健康診査にてスクリーニング後、家庭訪問や相談を実施し、保護者の考えを考慮しつつ、児童相談所、幼稚園や保育所等と連携しながら早期療育の推進と子育ての相談に努めております。保護者の中には「1～3歳」という年齢から個人差の範疇と捉えたり、集団生活の経験が少ないため他児との発達の開きを受けとめにくい等支援に苦慮し、療育を受け入れるまで時間がかかるケースもあります。また、3歳児健康診査では「軽度発達障害」の発見が難しく、4～5歳児になってから幼稚園や保育所からの相談を受けるケースもあります。

ご指摘の5歳児健康診査の導入については、道内では少ない状況ですが、鳥取県等積極的に導入している地域もあります。新たな健診の導入に伴う保健師や医師等の健診スタッフの確保等課題も多く、まずは、現在の3歳児健康診査の精度を高めるため、集団遊びを通じての対象児の行動観察の必要性等も内部で研究していきたいと考えております。



## 7. 育ちそびれの子ども現状と幼少期の親子関係について

### ◆参加者からの意見等

- 核家族化が進んでいて、幼い時に親と子がきちんとした形で関わる、スキンシップをする、躰けるという知恵が、どんどん失われてきている。障害がなくても、育つ環境の中で様々な発達しきれない、育ちそびれの子ども達が増えている。
- 若いお母さん、小さいお子さんがいる家庭に対し子育ての知恵を浸透して行ける仕組みが必要。小学校に入ってから、本を読みましょと一生懸命取組んでも厳しいが、小さいうちからお母さんと一緒に本を読んでいるこどもは、学力のもとになる力をもっているから苦労をしない。土台が出来上がっている。学力の問題も、幼少期の親子関係というか子育ての知恵、それをサポートする体制というのが、求められていると思う。

### ◆市長からの意見等

- ※ 他の参加者から、検診時に行っているブックスタート事業で読み聞かせすることを初めて知ったという母親がいることや、その後、図書館の利用へと繋がっている事例があることが紹介された。また、仕事を持たない母親の方が、健診などにも来ない場合が多く、情報も入りにくく、こどもの言葉が遅いなどつぶやく母親が多いと感じるという発言あり。

## 8. 民生児童委員・主任児童委員と保健課との連携について

### ◆参加者からの意見等

- 生まれて1ヶ月位で、保健師が各家庭を訪問しているが、出来ればその時に地域の民生児童委員や主任児童委員と一緒にいくことによってその後の声掛けや見守りに繋がると思う。
- 受け入れる方にすれば負担になるのかもしれないが、実際行っている市町村もたくさんあるようである。
- 実現を願っているのだが、稚内市では保健師の数が少ないため、なかなか実現が難しいようである。

### ◆市長からの意見等

- 民生児童委員・主任児童委員と保健課の連携強化を図れるよう、保健課に伝えていく。

### ■ 検討状況など 【担当…生活福祉部・保健課】

民生児童委員・主任児童委員の皆様には、日頃、大変お世話になっております。現在、皆様との乳幼児や妊婦への支援の連携は、こども課と検討しながら、主に「稚内市児童問題連絡会」の「要保護児童対策協議会個別ケース検討会」として取り組んでおります。

他市町村で実施している民生児童委員の皆様との訪問等は「乳児全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問事業）」と思われます。この事業については、本市では平成21年度より開始され、保健師と保育士によりほぼ100%実施され、親子の健康状況の確認や子育て相談さらに子育て情報の提供等を行っております。本事業の導入時、内部では民生児童委員の皆様との協働についても検討いたしましたが、皆様の職務も広範囲で多様である中で、年間300件の訪問の実施については難しいのではないかと、まずは保健課で対応という結論となりました。

地域の子育て支援の推進にはますます、皆様のお力が重要と認識しております。そのために子育て支援の入り口を担う保健課と皆様方との検討会を設ける等、まず情報交換の場を持ちたいと考えております。

## 9. ノシャップパークゴルフ場の休憩室の増築について

### ◆参加者からの意見等

- 近年、高齢者が増加していることもあり、パークゴルフを行う人が増えている。
- ノシャップパークゴルフ場には、休憩室が設置されているが、15人程度入れば満員となるため、外で休憩している人が多くいる。
- プレハブ等でも良いので、休憩できるような場所を増やして欲しい。

### ◆市長からの意見等

- 今、しますとか、しませんとかという話は別にして、検討させる。所管は教育委員会となっているので、今の現状・利用状況がどうなのかという調査も含めて、検討させるようにする。

### ■ 検討状況など 【担当…教育部・社会教育課】

現在、ノシャップパークゴルフ場は、平日でも好条件（気温・風）であれば、1日に150名程度が利用している状況となっております。多くの大会も開催されており、休憩や表彰などの際には、休憩室が混雑している状況にあります。

プレハブ等の増設については、設置用地の確保等の問題から困難な状況にあるため、現在の休憩室をより多くの方々に利用していただけるよう、休憩室のレイアウトを検討し、市民の皆様に気持ち良く利用していただけるよう努めてまいります。

## 10. 宝来地区 10 階建て市営住宅の災害発生時の避難場所としての活用について

### ◆参加者からの意見等

- 東日本大震災発生から、地震、津波に対する意識が高まっているため、防災マニュアルや海拔の標識を早急に作成して欲しい。
- 津波発生時の避難場所として、宝来地区には 10 階建ての市営住宅もあるので、それを活用できるようにして欲しい。
- 裏山を避難場所として活用することは出来ないのか。

### ◆市長からの意見等

- ハザードマップを作成中であり、近いうちに各家庭に配布できる。
- 現在、専門家に稚内の現状を見てもらっており、避難場所についても、活用出来るものは活用していく。
- 特に高い建物・公共施設は最優先で活用していくので、市営住宅についても、活用する方向で検討していく。
- 海拔標識についても、意味のあるものとしていくため、専門家の意見を踏まえながら設置場所等を検討していく。
- 裏山の避難場所としての利用については、除雪等の関係もあるため、専門家の意見を踏まえ、慎重に検討していく。
- 災害発生時に必要なことは、「逃げること」と「伝えること」であり、現在、FMわっぴーの電波を利用して、市民に災害発生情報を伝える手法も検討している。

### ■ 検討状況など 【担当…総務部・総務課（防災担当）】

現在、津波浸水予想や土砂災害を含む『防災ガイドマップ』を作成中であり、4月以降に全世帯・事業所等に配布を予定しております。また、海拔表示についても新年度以降、沿岸部の避難施設を中心に掲示を計画しております。

津波災害等における高層建物の利用については、避難場所等への避難が時間的に難しい際において、公共施設以外に民間ビルの活用も含め専門家を交えて検討しているところです。

裏山の避難場所としての活用については、必要性は認識しておりますが、降雪時期の対策など難しい側面もあり、高台を利用するなどの方法も合わせて検討しております。

いずれにいたしましても、十分に検討して、市民の皆さんが安全に避難できる経路と場所の確保を進めてまいります。

## 11. 若者が安心して働ける環境整備について

### ◆参加者からの意見等

- 今、地域の中で、若い人たちが高校等を卒業して、結構稚内に戻ってきているが、仕事がないということに加え、各職場で雇って、戦力になるまで面倒をみて、仕事を覚えさせてという時間がかけられなくなっている現状がみられる。
- 親も、教育期間が終わっても、子ども達の自立までの間、面倒をみななければならないので困っている。
- 市内の各事業所に、ある程度の枠を持ち、遊んでいる若者たちが仕事を覚えるまで、教えていくというような場所ができればよいと思っている。

### ◆市長からの意見等

- 雇用の確保は、人口減少に対する対策としても非常に重要なことである。
- だが、仕事がないと言っている一方で、農業や漁業などの一次産業においては、後継者がいなく悩んでいるところもあり、必ずしも需要と供給が一致していない部分もある。
- 幼い頃から農業や漁業、水産加工業といった稚内の基幹産業に興味を持ってもらえるような教育も今後進めていかなければならない。
- 若者の雇用の問題は、これからの重要なテーマなので、しっかり取り組みたい。

## 12. スクールガード活動への支援について

### ◆参加者からの意見等

- 現在、スクールガードを行う際の防寒着については、自分たちで用意したものを利用している。市で防寒着等を整備している地区があるのであれば、この地区にも整備して欲しい。
- 自分達の町内会では、防寒着を購入しているが、なり手が少なく困っている。
- 保護者にも手伝ってもらえるよう、PTAなどを通じて要請をすればいい。  
(保護者)

### ◆市長からの意見等

- 現在、スクールガード活動には、帽子とベスト、ジャンパーと腕章を配布しており、防寒着については、申し訳ないが、自前で用意していただけないかということをお願いしている。
- 全地区で同様の対応を取らせていただいているため、特定の地域分だけ市で用意しているということはない。
- 教育委員会が窓口になっており、他の地区も含め皆さんのご意見を伺いながら検討する。もし手立てすることになった場合、全地区で一斉に手立てする。

### ■ 検討状況など 【担当…教育部・社会教育課】

スクールガードは、登下校時の子ども達の安全安心を確保するための、地域のボランティアの皆様による見守り活動であり、その抑止効果は非常に高いと認識しております。お陰様で現在、市内7地区で560名もの皆様に活動に携わっていただいております。

市としては、通りかかるドライバーや通行する方に、活動をアピールするための“目印”として、帽子やジャンパー、腕章などを配布してきたほか、活動中の万が一のケガ等を保険で補償する等、皆様のご意見をいただきながら安心して活動いただけるしくみづくりを進めてまいりました。

当初はジャンパーだけの支給であったため、夏場は暑過ぎるなどの声が多く寄せられたこともあり、その後、夏は半そでの上に、冬は防寒着の上からも着用できるベストを用意し、活動中に着用していただいているという経緯があります。町内会等で独自に防寒着などを購入するなど、地域独自で応援していただいているところもあるようで、感謝申し上げます。

今後も、交流研修会などを通じ、皆さんのお声をいただきながら、子ども達を温かく見守る地域づくりを進めてまいりたいと考えます。

### 13. 市費教員、支援員設置の継続について

#### ◆参加者からの意見等

- 現在、学校には支援員と市費教員が配置されているが、先日、学校から「来年度から人数を少なくする」というお知らせがあった。
- これまで少人数学級で行き届いた授業を受けていたので、急に変わると言われると不安である。
- 今後もぜひ、今まで通りの体制を継続して欲しい。
- 人づくりはまちづくりにも繋がるため、先生方にはゆとりを持って教育を行ってもらうため、もっと先生を増やすべきである。

#### ◆市長からの意見等

- 基本的には、財政が厳しいから人数を減らすという話をした覚えは一度もない。これまでと方向性は変わらない。私の方から、予算が厳しいから減らして欲しいという話をしたことはない。
- 稚内市の予算規模から言って、教育費にかけている予算が低いかというと、そうではなく、本市は教育に非常に予算をかけている。
- 財政が厳しいから、教育のこの予算を削るという話をしているつもりはない。ただし、そのような中でも止めなければならぬものは、残念だけど止めさせてください、その代わり新しくこれをやりますという具合に、毎年、動かしているということをご理解いただきたいと思います。

(検討状況等は次ページ)

## ■ 検討状況など 【担当…教育部・学校教育課】

1つ目の特別教育支援員は、教育上特別の支援を必要とする児童生徒に適切な教育を行うために配置しており、主に、日常生活上の介助や学習障害の児童生徒への学習支援を業務としております。特別教育支援員の配置の考え方に変更はなく、今後も支援を必要とする児童生徒の把握に努め、適正に配置していく考えです。

次に、2つ目の市費負担教員についての考え方をお伝えします。

小中学校の教員は、国がその費用の一部を負担して都道府県が配置していますが、核家族化や少子化による家庭の教育力の低下が言われる中、本市では、標準学力テストの結果が全国平均を下回ったこと、また小学校段階でしっかりと基礎・基本を身につけ、学ぶ意欲を育てる必要性があること等から、平成18年度から市独自に教員を採用（市費負担教員）してまいりました。

市費負担教員は、小学校1～2年生で30人以下の少人数学級を編成するため、また3～6年生の少人数指導を行うために配置しており、平成23年度は8名を採用しています。30人以下の少人数学級は、国から「てっぺん教育力育成特区」の指定を受け、全国に先駆けて導入したもので、道内で実施しているのは、本市のほか土幌町のみです。

これに対し文部科学省は、小学校1年生の1学級上限を、本年度よりこれまで40人から35人に引き下げていますが、このたび、来年度から小学校2年生にも35人学級を導入することが決定されております。

また、北海道教育委員会は、近年の全国学力学習状況調査の結果を受け、平成26年度までに北海道の児童生徒の学力を全国平均まで引き上げるとし、昨年より学力向上対策のための様々な事業を展開しております。その一つ、中学校教員が小学校の授業にあたる「巡回指導教員活用事業」では、本市の各小中学校に道費教員3名が配置されました。また、北海道の「退職教員等活用事業」では4名の教員が各小中学校に配置されております。

こうしたことから、3～6年生の少人数指導は、北海道の学力向上対策で講じる様々な事業で、道費負担教員の増加配置が可能となることから、今後は、これらの事業を積極的に利用しながら進めていく考えです。また、小学校1～2年生の少人数学級を実現するために必要な、市費負担教員の採用は、今後も継続する予定です。



## 14. 活動拠点センターでの窓口サービス機能拡充（証明発行）について

### ◆参加者からの意見等

○前市長が「活動拠点センターで証明発行などの行政サービスを行えるようにする」という話をしていたが、そのような予定はあるのか。

### ◆市長からの意見等

○活動拠点センターを支所のような位置付けにすることは、今のところ考えていないため、活動拠点センターで証明を発行するというのは難しい。

○ただし、活動拠点センターを経由して、各種証明をお渡しするという手法等も考えられるため、今後、必要性等を踏まえて、検討していく。

### ■ 検討状況など 【担当課…生活福祉部・総合窓口課】

住民票の写し等の交付については、これまでも庁舎以外での交付について検討してまいりました。

公証書類には、その性格上様々な制約があり、費用対効果の面などからも実現には至っておりませんが、今後も引き続き検討してまいります。

## 15. 宝来地区活動拠点センターの増築（2階）について

### ◆参加者からの意見等

- 人との付き合い、孤独死を回避するため、活動拠点センターに足を運ぶ人が増えており、年々利用者が増えてきている。
- 小中学校の作品展なども行っているが、スペースが狭く、展示に苦慮している。
- これから、2棟目の市営住宅も建設されるので、2階への増築を検討して欲しい。

### ◆市長からの意見等

- 活動拠点センターについては、当初から、市営住宅を2棟建てることを想定して建てたものである。
- 利用が増えているということは、非常にありがたいと思っている。
- 2階の増築については、所管の方には地域からこういう声があるという話を伝え、検討するようにさせる。十分に内部で協議したいと思うので、多少時間をいただきたい。

### ■ 検討状況など 【担当課…総務部・地域振興課】

「宝来地区活動拠点センター」は、設計時から、市営住宅2棟の建設を見込んだ利用者数を想定して、地域の皆様と協議を重ね、利用形態や必要な機能などについてご意見をいただき、施設の規模などを決定いたしました。

同センターは、施設の管理運営を受託する協議会が様々な事業を企画し、また地域の皆さんの工夫により積極的に利用していただいております。

十分な検討を重ねて建設した同センターは、将来の増築を見込んだ建物ではないために、建物の構造上、2階の増築が困難な状況です。残念ながら、現時点での増築については、難しいものと考えております。

展示スペースの件につきましては、地域の方々の知恵と工夫で、効果的で上手な利用を図っていただきたくお願いいたします。

## 16. 老人クラブの活動拠点センターの減免について

### ◆参加者からの意見等

- 老人クラブでは、月に1回、例会を開催しているが、地域サークル室では狭いため、集会室や軽体育室を利用している。
- 老人クラブは、会費、町内会からの助成金、市からの助成金で運営しているが、使用料の負担が非常に大きいので、使用料の減免を検討して欲しい。

### ◆市長からの意見等

- 活動拠点センターだけではなく、他の施設との関係もあるため、減免については、基準を明確にすることが必要となる。
- 建物の利用を安くするという話よりも、例えば高齢者の活動を行政として応援していくという捉え方で、結果として負担が軽くなるということも考えられる。少し検討させてほしい。

### ■ 検討状況など 【担当課…政策経営室】

まず、本市における各種施設の使用料の設定は、使用者の過度な負担を防ぐよう配慮しながら設定していることをご理解いただきたいと思います。

また、身近な地域でいきがいや健康づくりに取り組んでいただいている老人クラブ活動は、大変意義深く、地域で活動する“各老人クラブ”とその集合体である“老人クラブ連合会”の活動には、市から補助金を交付して支援しているところです。

使用料のご負担が大きいとのご意見ですが、減免以外の方法で支援ができないものか、市内の各老人クラブの活動状況を調査し、協議をしながら、どのような支援が皆さんの活動に望ましいのか検討を進めてまいります。